

# 奈良県在宅就業支援事業受講生(第2期)を 対象としたアンケート結果

---

2012.01.11

株式会社ワイズスタッフ

## ■ 調査対象者

奈良県 就労困難者在宅就業支援事業 第2期受講生

## ■ 調査期間および有効回答数

1回目(2011年1月・初回実施)	回答数	25(回答率100%)
2回目(2011年3月実施)	回答数	24(回答率100%)
3回目(2011年6月実施)	回答数	20(回答率95%)
4回目(2011年9月・修了時)	回答数	14(回答率100%)

※今回は全員参加アンケートとして実施

## ■ 回答者属性

奈良県在住のひとり親、障害者

ひとり親:初回調査時19名(修了時10名)

障害者 :初回調査時6名(修了時4名)

## ■ 調査会社

株式会社ワイズスタッフ

※奈良県から委託を受け、株式会社ワイズスタッフが調査を実施しました。

訓練期間中、4回にわたって実施した調査の結果とその推移について、以下にまとめた。

## 受講状況概要 ～ 訓練実施やその内容については肯定評価中心

- 訓練期間を通じて、訓練の内容や進行に対する受講生の評価は肯定的な内容が多い。
- 訓練に対しては「ちょうどよい」もしくは「難しいながら、何とか消化できている」と感じている受講生が大半。  
ただし、基礎訓練が終了し、応用訓練・OJTが進むに従い、訓練の難易度・ボリュームが増し、内容についていけない受講生の割合が増加。  
加えて、既存の仕事と両立することの厳しさ、在宅就労への自身の適性・スキルへの不安などから、期間満了を待たずに訓練を終える受講生もみられた。
- 訓練修了まで学習を継続した受講生は、日中も学習できる方や、訓練終了後も比較的短時間の就労を希望する方の割合がやや高めだったが、日中の仕事と学習を最後まで両立し続けた受講生も複数いた。
- 特に訓練修了まで学習を継続した受講生からは、訓練参加により、
  - 「在宅就業への意欲が増した」
  - 「PCスキルがアップした」
  - 「自分でスキルアップをしようと思うようになった」
  - 「時間管理ができるようになった」など、多岐にわたるプラス効果がみられた。また、訓練を修了した受講生全員が「訓練に参加して良かった」と評価していることが確認できた。

## 訓練システム・受講生サポート ～ 受講生のモチベーション維持の仕組みづくりが重要

- 自宅でのeラーニングが軌道に乗るまで、受講生の励みとなったのが、「トレーナー（応用訓練からはPM）の励まし」や「訓練仲間との交流」。特に「訓練仲間との交流」は訓練期間終盤になるほど重きを増す傾向がみられるなど、受講生のモチベーション維持に大きな効果を見せた。在宅訓練の進行にあたって、受講生同士のコミュニケーションを促進する仕組みづくりが重要であることをあらためて確認できた。

### 仕組み①

#### 集合研修

- ・就労者に配慮した日時設定（土曜日午後開催）、スタッフの対応、利便性の良い会場手配、託児サポートなどが高評価
- ・顔を合わせたコミュニケーションを図ることによる「不安感の払しょく」「参加意欲の向上」「仲間意識の醸成」

### 仕組み②

#### eクラスルーム

- ・トレーナー（PM）によるきめ細やかなサポートが可能に
- ・受講生同士のスムーズなコミュニケーションを促進

### 仕組み③

#### ツール・サポート

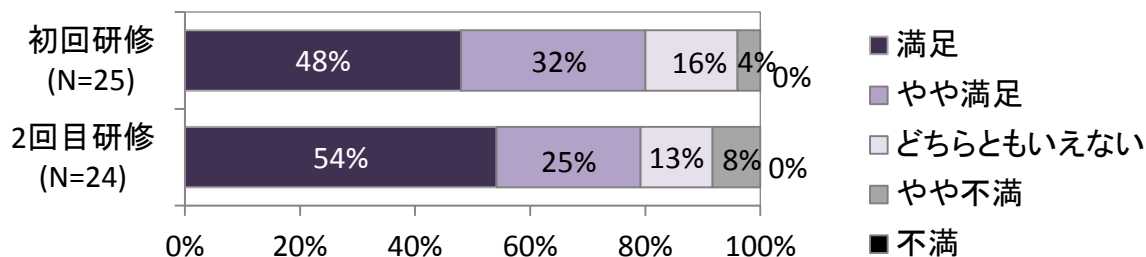
- ・Pro.メールや在席管理システムなどの操作性は高評価
- ・集合研修での使用指導、フリーダイヤルによるサポート等により、自宅訓練のスムーズなスタートが可能に

- なお、今回、個人補習実施のニーズを確認したところ、自宅訪問方式では5割、サポートセンター（予約制）対応方式では8割が利用したい回答。今後の検討課題となっている。

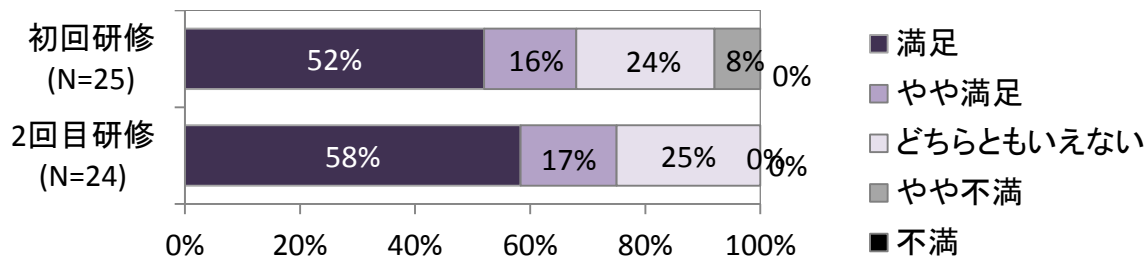
# 集合研修に対する評価1

- 就業訓練にあたっては、訓練開始時と応用訓練開始時に集合研修を実施した。
- 就労者に配慮した日時設定(土曜日午後開催)、スタッフの対応、利便性の良い会場手配、託児サポートなどが評価され、集合研修に対する参加者の評価は高かった。

## ■ 集合研修の参加のしやすさ(日時など)



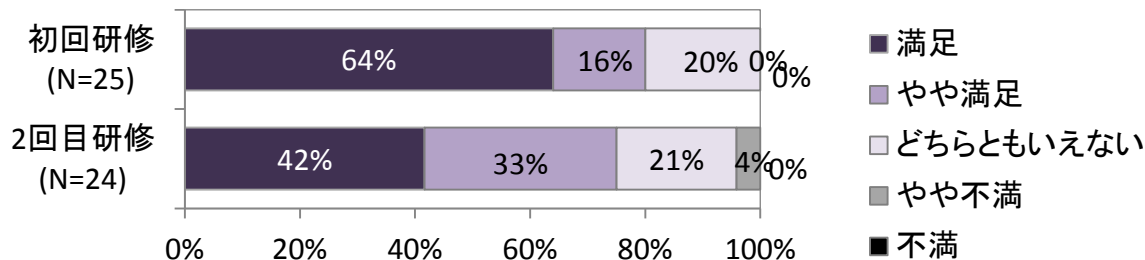
## ■ 集合研修の施設や託児などのサポート



# 集合研修に対する評価2

- 集合研修の内容に対しても、受講者の評価は全般的に高かった。
- 特に、受講者同士が顔をあわせてコミュニケーションを図る機会を持つことで、「不安感の払しょく」「参加意欲の向上」などに効果があったとする受講者の声が目立った。

## ■ 集合研修の内容



## ■ 集合研修内容に関する評価理由コメント例

満足・  
やや満足

- ・ パソコンを使って実践訓練している時も、スタッフの方がすぐに来て対応して貰えたのが心強かった。また、一緒に訓練をする方々と直接、会えたことで緊張も解け、より一層、前向きな気持ちになった。
- ・ 始まる前はとても不安でしたが、他の受講生の方たちとお話ができ、自分だけじゃないんだと安心しました。自宅でしているときも、みんなも頑張っているんだ、私も頑張ろうと思えます。
- ・ 参加された方々の考え方や、思いを聞くことができ、自分の励みになったこと。

どちらとも  
いえない・  
やや不満

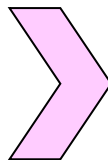
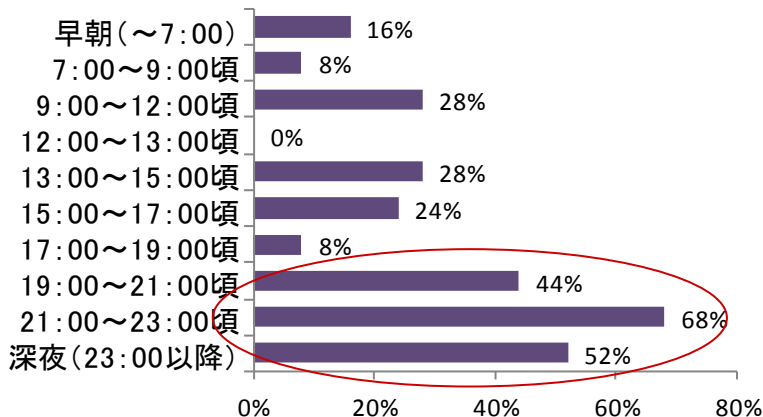
- ・ 人前で話すことが苦手であがってしまい、気が付けば時間が過ぎていたという感じです。
- ・ 主にコミュニケーションをとるために設けられた場とおっしゃっていましたが、時間配分が細かすぎます。

# eラーニングによる自宅学習の受講状況1

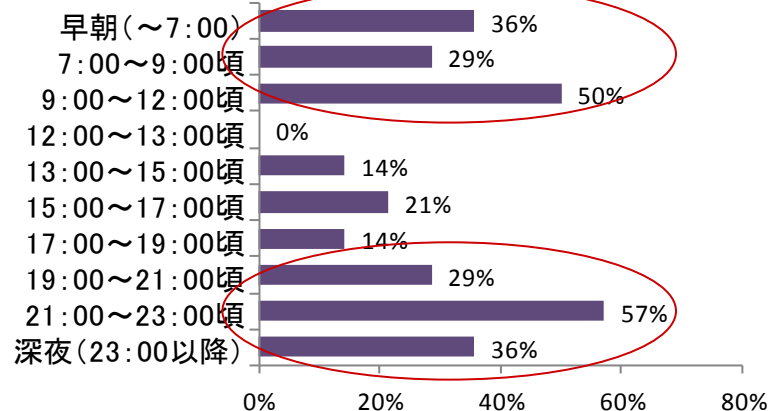
- 自宅でのeラーニングに取り組む主な時間帯を確認した。  
訓練開始後まもなくは「21:00～23:00頃」「深夜(23:00以降)」など夜間帯の取り組みが目立ったが、訓練終盤まで継続できている受講生では、早朝や午前中の時間帯を活用する割合が比較的高かった。

## ■ 平日の主な取り組み時間 (5項目まで選択可)

1回目調査(2011年1月・N=25)



4回目調査(2011年9月・N=14)



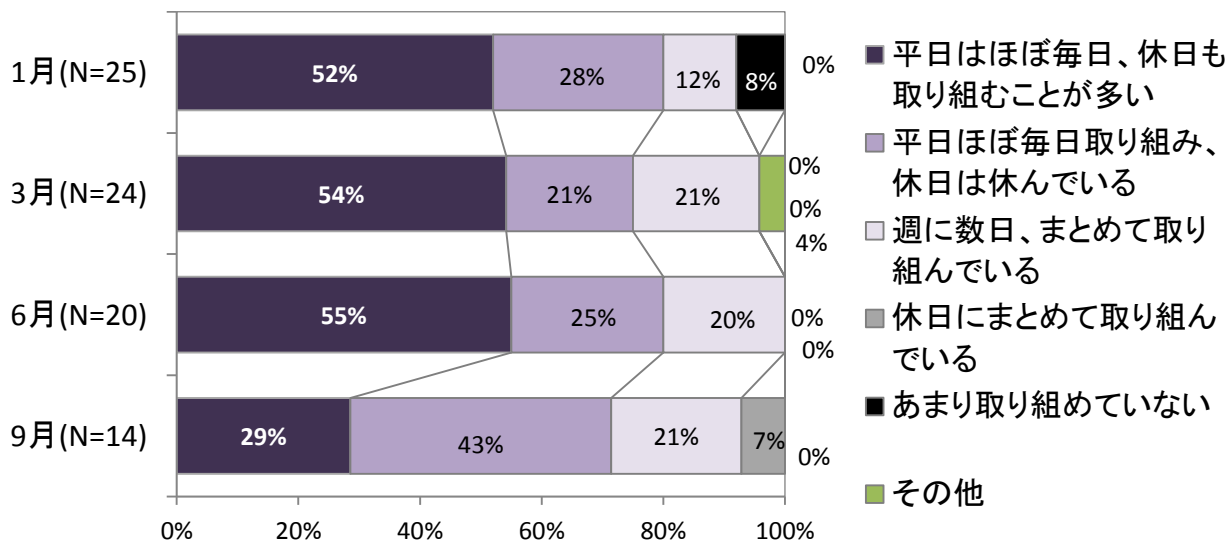
# eラーニングによる自宅学習の受講状況2

- 自宅でのeラーニングには「平日はほぼ毎日、休日も取り組むことが多い」という受講生が半数以上を占めた。受講生がコンスタントに学習に取り組んでいる一方で、平日の取り組みだけでは対応しきれないでいる様子がうかがえる。
- 同選択肢を選ぶ受講生の割合は、訓練修了時の調査では減っている。これは、訓練内容の難易度アップやOJT実施などによる負担増から、仕事と訓練を両立する受講生が減った影響とみられる。

## ■ 平日・休日の取り組み状況の推移

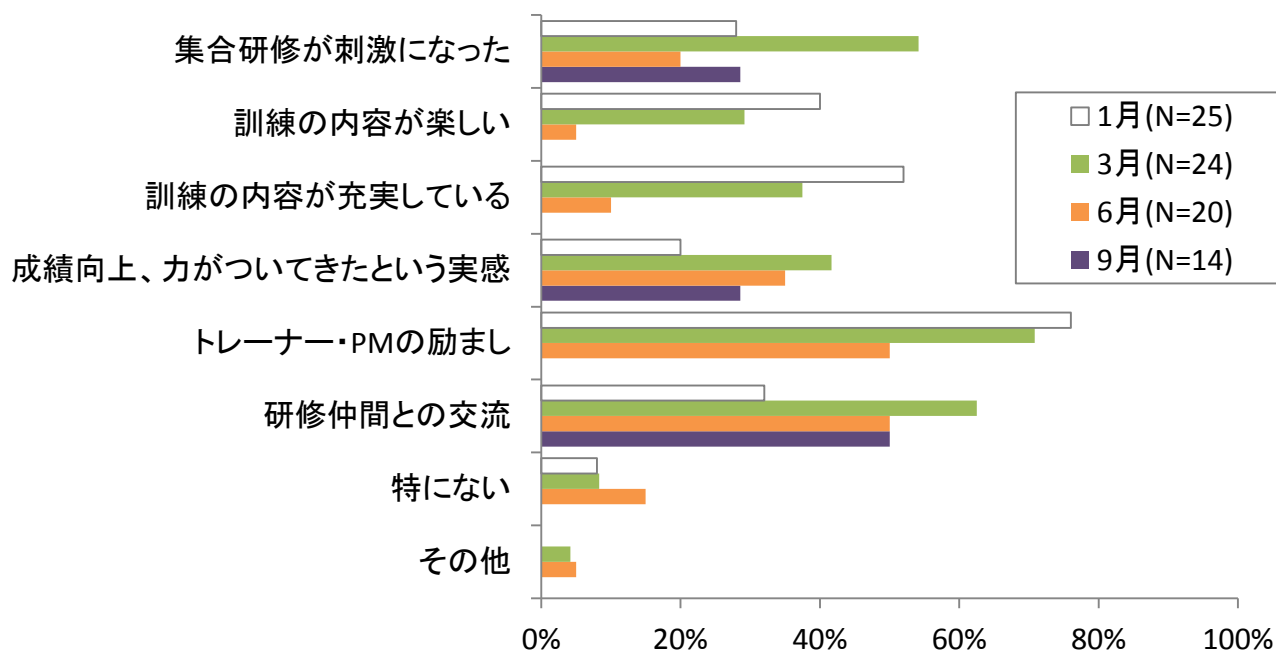
(訓練開始1カ月後)

(訓練修了時)



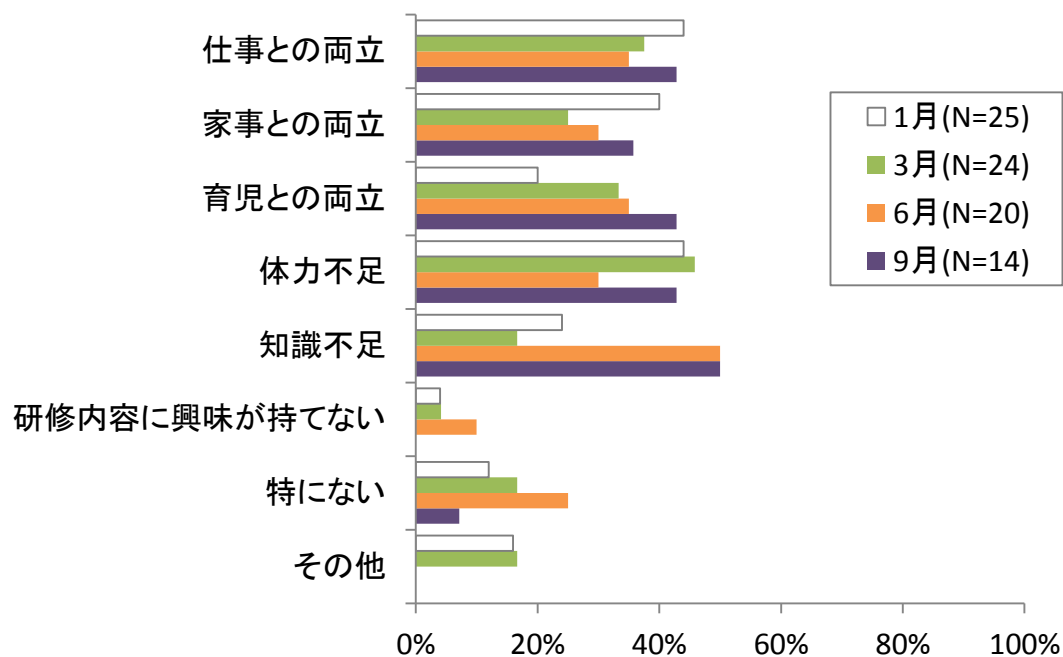
- 訓練期間を通じて「トレーナー（応用訓練からはPM）の励まし」や「訓練仲間との交流」が学習の励みとなったという声が多かった。受講生が交流を深める集合研修や、自宅学習で孤独感を持たないように整えられたネット上の「eクラスルーム」などが功を奏したものと考えられる。
- 訓練開始当初は、訓練内容の楽しさや充実感を受講の励みとする声も多かったが、訓練を重ねるにつれてその割合は減り、代わって「成績向上、力がついてきたという実感」が受講生のモチベーション維持につながっている。

## ■「受講の励み」とその推移



- 仕事や家事、育児との両立に負担を感じたり、知識不足への不安を抱える受講生の割合は、訓練期間が長くなるにつれ増える傾向がみられた。
- 上記の結果は、訓練が進み内容が深化するにつれて受講生の負担が増えることや、訓練開始当初の緊張感・高揚感が消えることなども影響していると推察される。とはいえ、前述のようにトレーナー（PM）や受講生同士の支えもあって、学習時間確保の苦労以外に訓練の妨げになる要素は少なかった。

## ■「受講の妨げ」とその推移

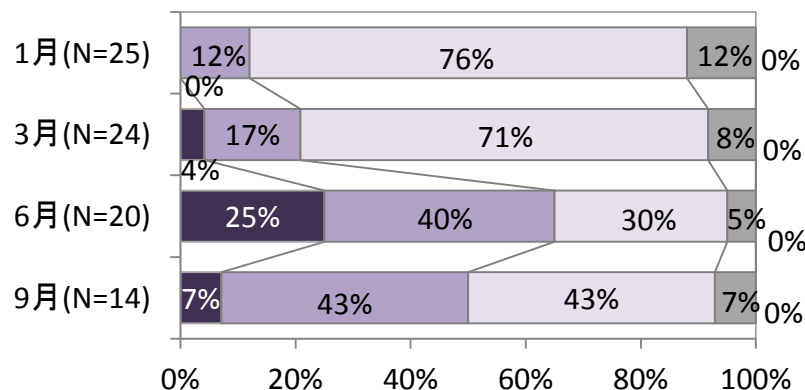


# 訓練教材に対する受講生の評価1

- 訓練で使用する教材の量について、基礎訓練中は「ちょうどよい」という回答が7割以上を占めた  
が、応用訓練が始まるに伴い、「多い」「やや多い」と感じる受講生が半数以上となった。
- 訓練内容の難易度については、訓練が進むにつれて「難しい」「やや難しい」と感じる受講生の  
割合が増した。

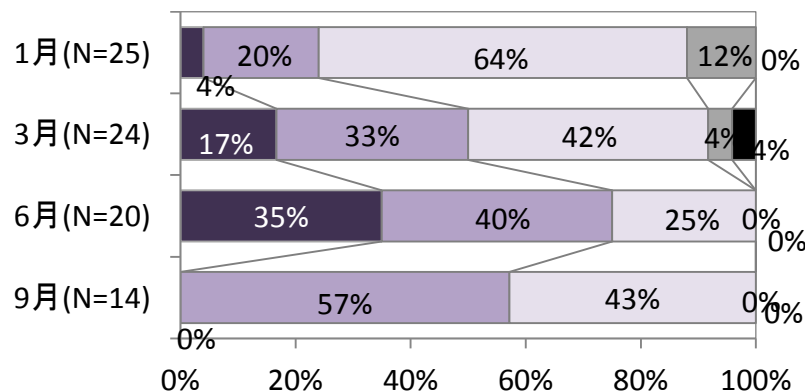
## ■ 受講生評価

教材の量



- 多い
- やや多い
- ちょうどよい
- やや足りない
- 足りない

教材の難易度

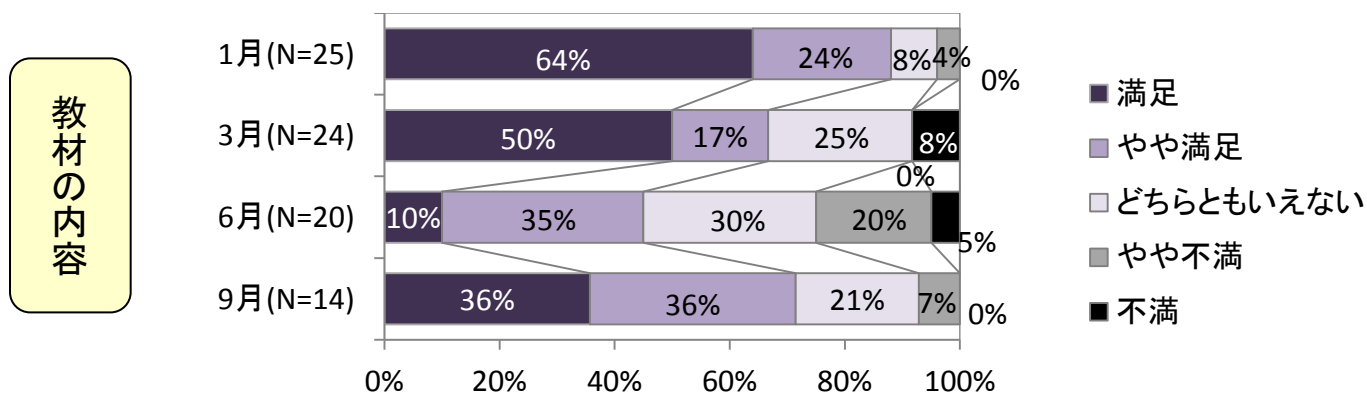


- 難しい
- やや難しい
- ちょうどよい
- やや物足りない
- 物足りない

# 訓練教材に対する受講生の評価2

- 訓練で使用する教材内容について、訓練開始後最初の1月調査では「満足」「やや満足」と評価する受講生が9割弱にのぼったが、訓練が進むにつれてその割合は減少する傾向がみられた。
- 前頁にあるように、訓練の深化に伴い教材の量・難易度がアップし、受講生の負担が増したことも影響していると考えられる。

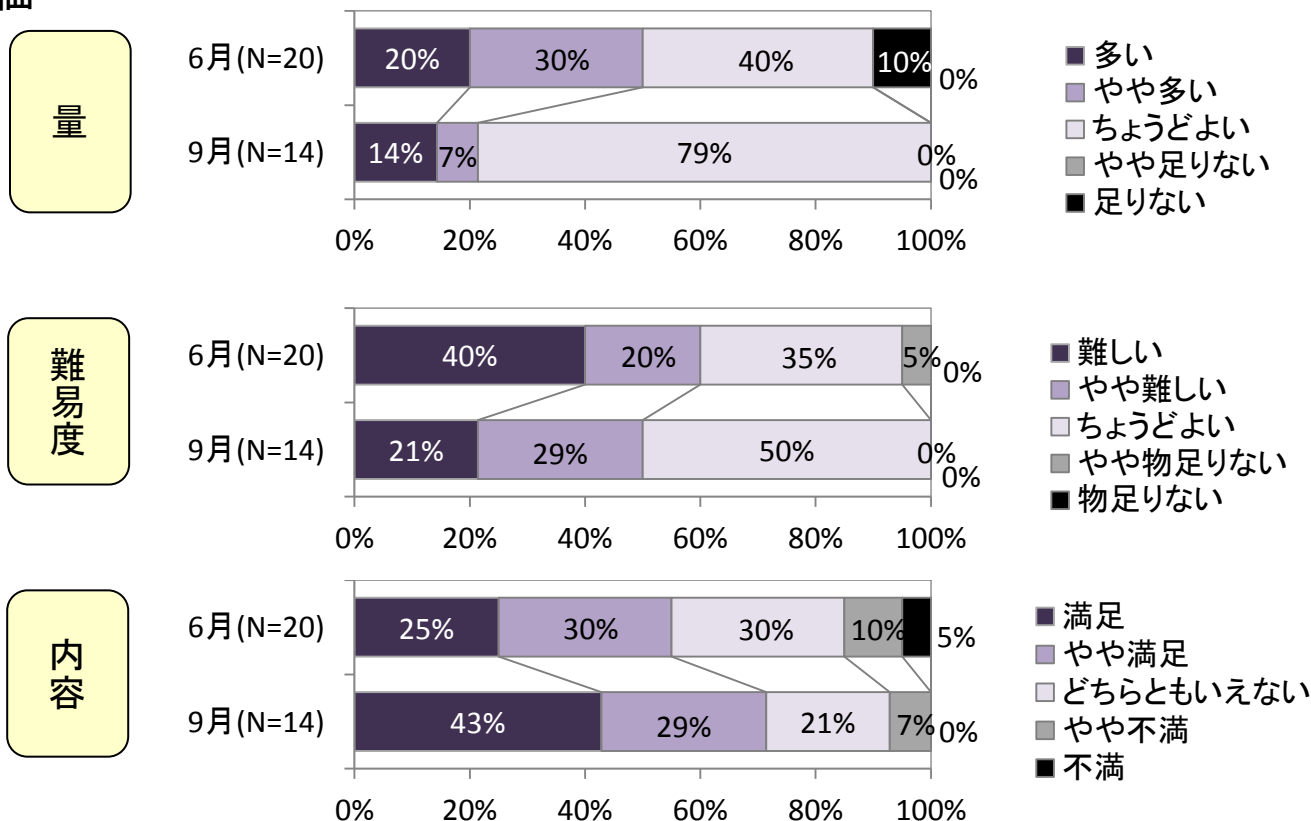
## ■ 受講生評価



# OJTに対する受講生の評価

- 応用訓練と並行して実施されたOJTについては、取り組み開始当初は量、難易度ともに負担感を感じる受講生が半数を占めたが、OJT終盤には「ちょうどよい」という評価の割合が増えた。
- OJTの内容については、訓練が進むにつれて「満足」「やや満足」と肯定評価をする受講生の割合が増え、訓練終盤では約7割にのぼった。

## ■ 受講生評価

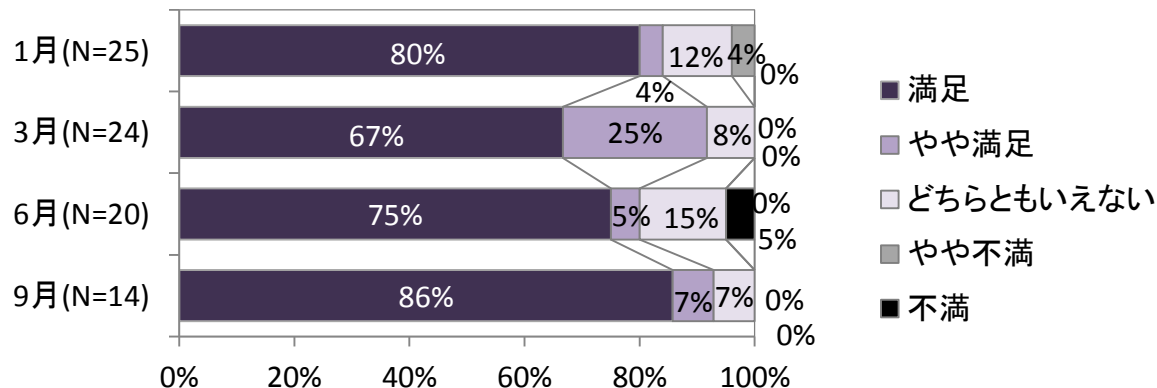


# 訓練のサポート体制に対する受講生の評価1

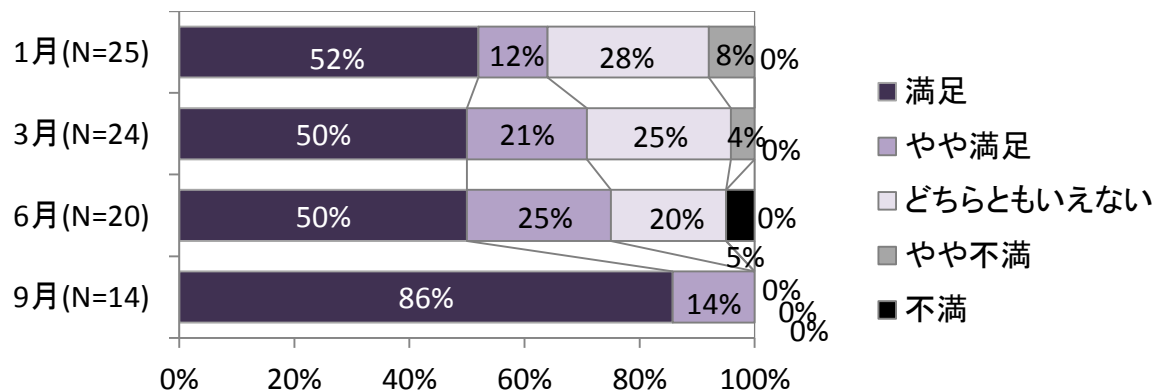
- 訓練で使用したPro.メールや在席管理システムなどの操作性については、受講生の8～9割から高評価が得られた。
- クラスルーム制については、訓練が進むにつれて評価が高まり、訓練終盤の調査ではほとんどの受講生が「満足」と答えた。

## ■ 受講生評価

ツールの操作性  
について



クラスルーム制  
について

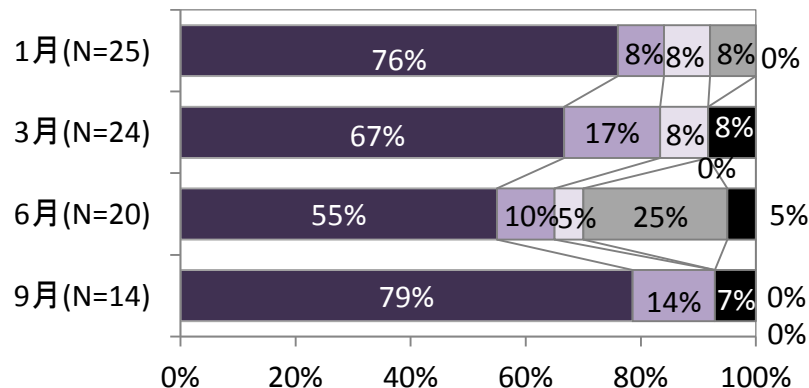


# 訓練のサポート体制に対する受講生の評価2

- トレーナーの対応に対しては、受講生の多くが肯定評価していたが、訓練が進み受講の負担感が増すにつれて、やや評価が下がる傾向がみられた。
- フリーダイヤルなどのサポート体制については、実際の利用者が限られていることもあって、「どちらともいえない」という回答が多かったが、利用者からの評価はおおむね好評だった。

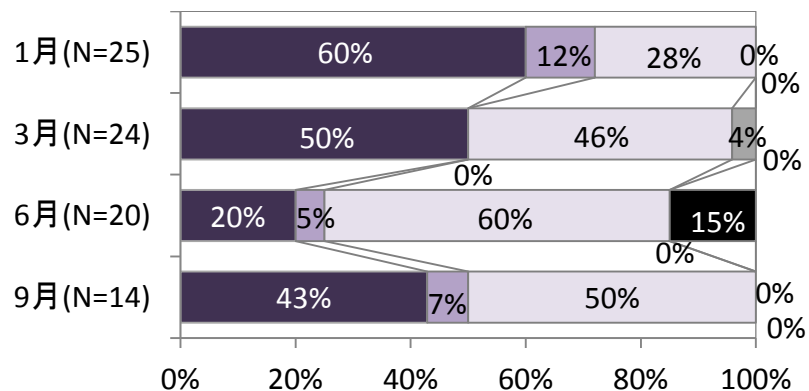
## ■ 受講生評価

トレーナーの  
対応について



■ 満足  
■ やや満足  
■ どちらともいえない  
■ やや不満  
■ 不満

その他サポ  
ートについて

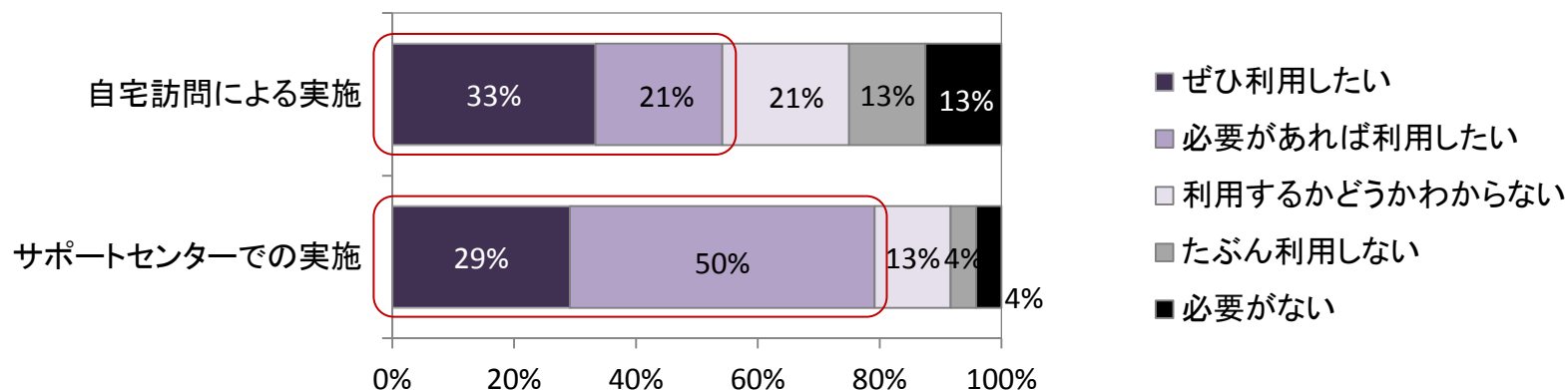


■ 満足  
■ やや満足  
■ どちらともいえない  
■ やや不満  
■ 不満

# 個人補習実施の希望

- 基礎訓練の学習において、通常のeラーニングに追加して、サポートセンター(富雄・予約制)もしくは自宅訪問による個人補習があれば利用したいか、受講生の意向を確認したところ、「ぜひ利用したい」という回答はともに3割前後。
- 障害の有無にかかわらず、サポートセンターより自宅での個人補習を希望する受講生が散見されるものの、「ぜひ利用したい」「必要があれば利用したい」と個人補習実施に前向きな意向を示す割合が多かったのは、サポートセンターでの実施だった。

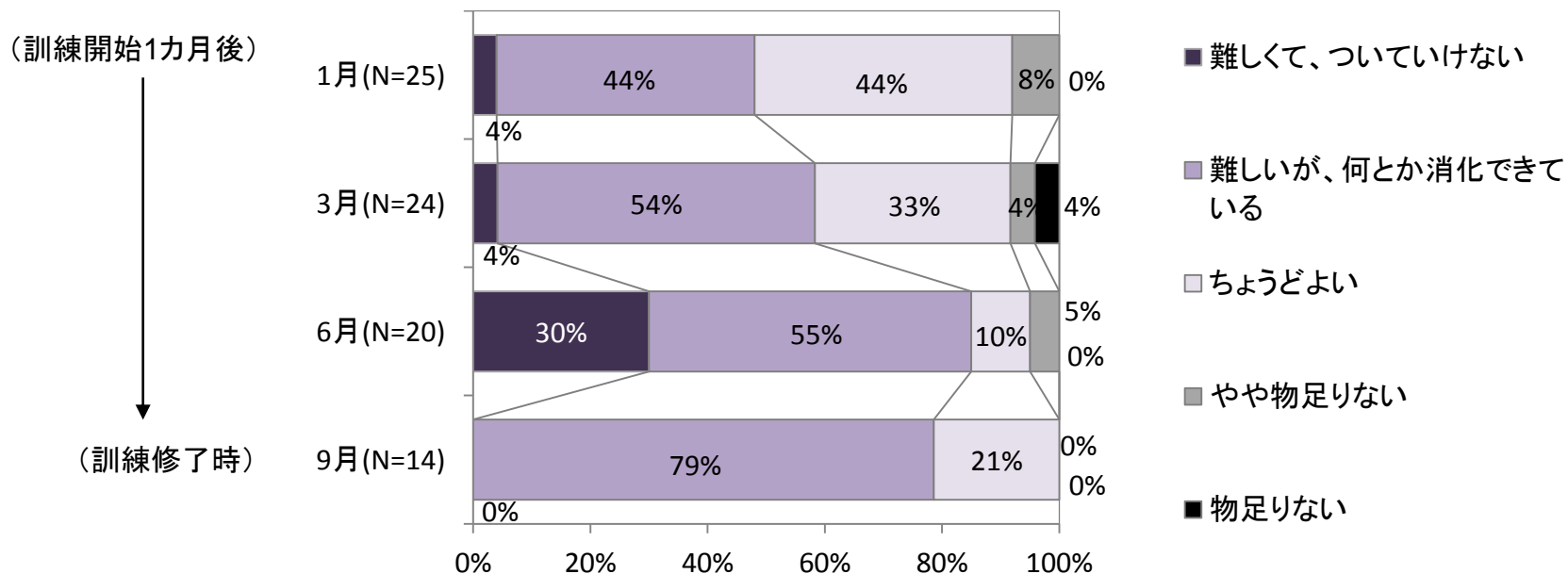
## ■個人補習実施の希望(3月調査 N=24)



# 受講生の訓練への意識1

- 訓練期間前半は、基礎的な講習内容だったこともあり、受講生の大半が「ちょうどよい」もしくは「難しいが、何とか消化できている」という評価。ただし、応用訓練・OJT開始後の6月調査では「難しくついていけない」という評価が3割にのぼった。
- 訓練終了時となる9月調査では、「難しいが、何とか消化できている」という回答が8割を占めた。

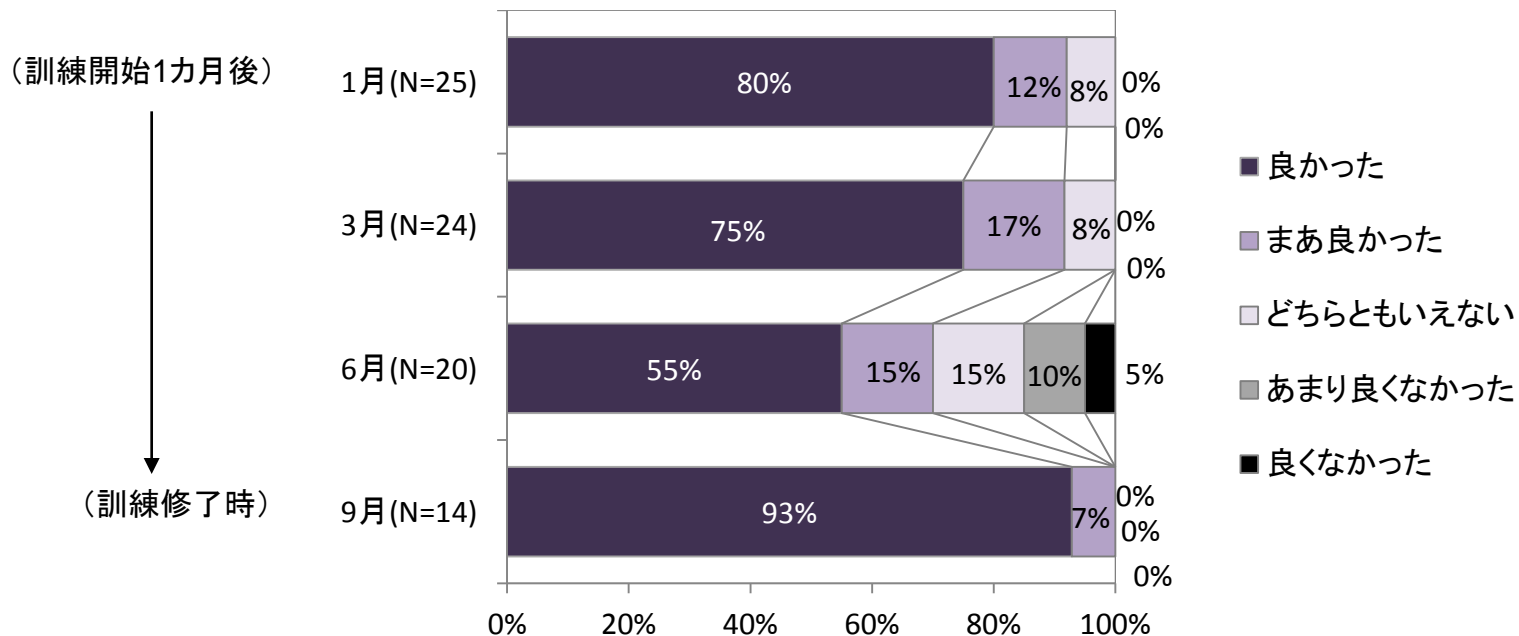
## ■「訓練についていけない」と感じているか



# 受講生の訓練への意識2

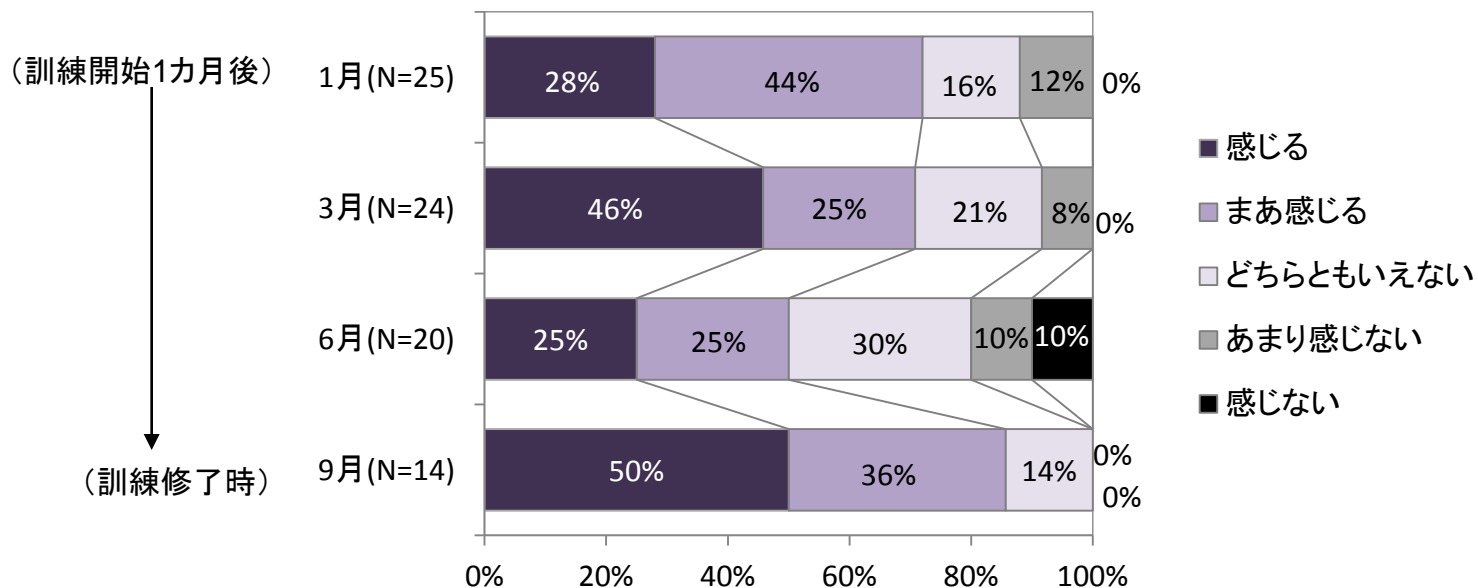
- 受講生が訓練参加についてどのような意識を持っているか確認したところ、全体に「参加して良かった」という評価が多い。ただし、応用訓練・OJTが開始し受講生負担が増した後の6月調査では、若干その割合が減少した。
- 訓練修了まで継続した受講生では、9割以上が「良かった」と回答し、「まあ良かった」も含めると全員が肯定評価だった。

## ■「訓練に参加して良かった」と感じているか



- 訓練に参加して、在宅就労の技術が身についてきていると感じるか？という問いに対し、訓練終了時の9月調査では「感じる」「まあ感じる」という回答が8割以上を占めた。
- 6月調査時点で「どちらともいえない」「あまり感じない」といった回答の割合が増加している。これらの受講生では、自身の「知識不足」や「訓練内容に興味を持てない」ことが訓練参加の妨げになっていると感じているケースが多い。  
訓練やOJTの内容が実務を意識した難易度に近づくに従い、その対応に苦勞し、在宅就業で収入を得ていくにはさらなるスキルアップや強いモチベーションが必要であることを痛感している様子がうかがえる。

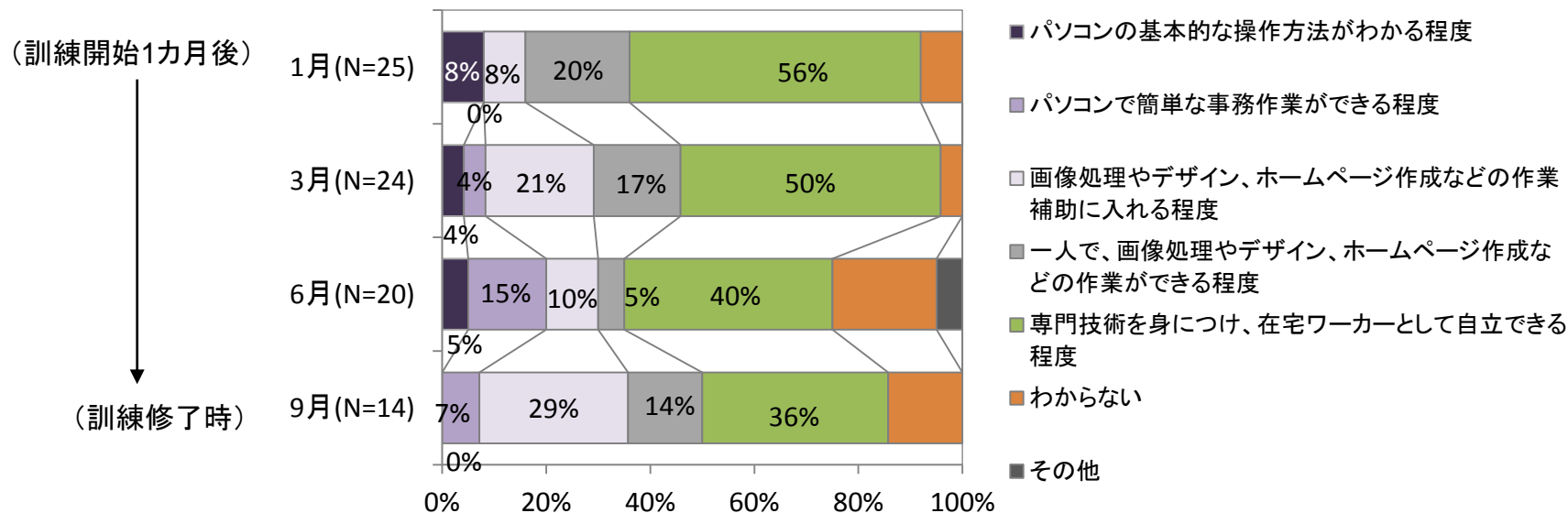
## ■ 在宅就労の技術が身についてきていると感じるか



# 訓練によるスキルアップへの期待度

- 今回の訓練でどの程度までスキルアップしたいと考えているかをたずねたところ、訓練開始後間もない1月調査で最も多かった「在宅ワーカーとして自立できる程度」という選択肢は、訓練期間が進むにつれて割合が減り、逆に「作業補助に入れる程度」の割合が増える結果となった。
- 訓練での到達レベルの設定を下げる受講生が目立つ。これは応用訓練やOJTなどの経験を通じて、自身のスキルに対する認識や家事や育児との両立の難しさなどを理解し、より現実的な視点から在宅就業について考えるようになった結果であると推察できる。

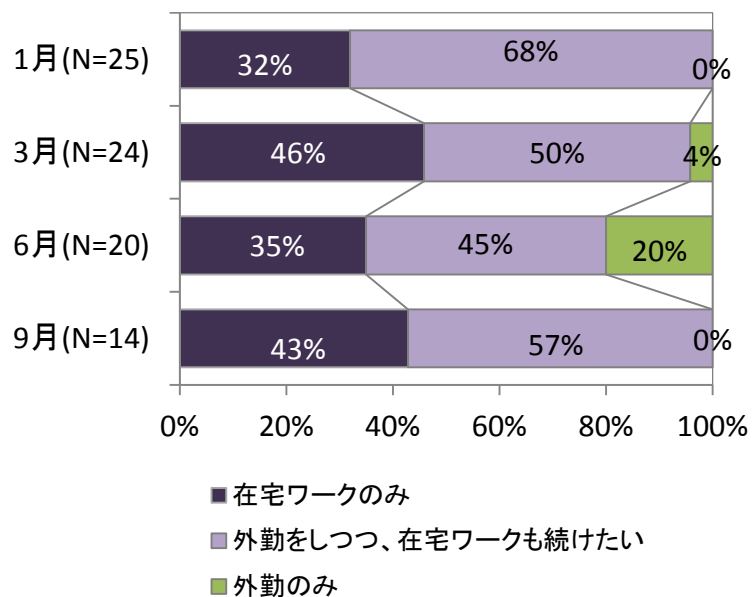
## ■ 訓練での習得を目指すスキルレベル



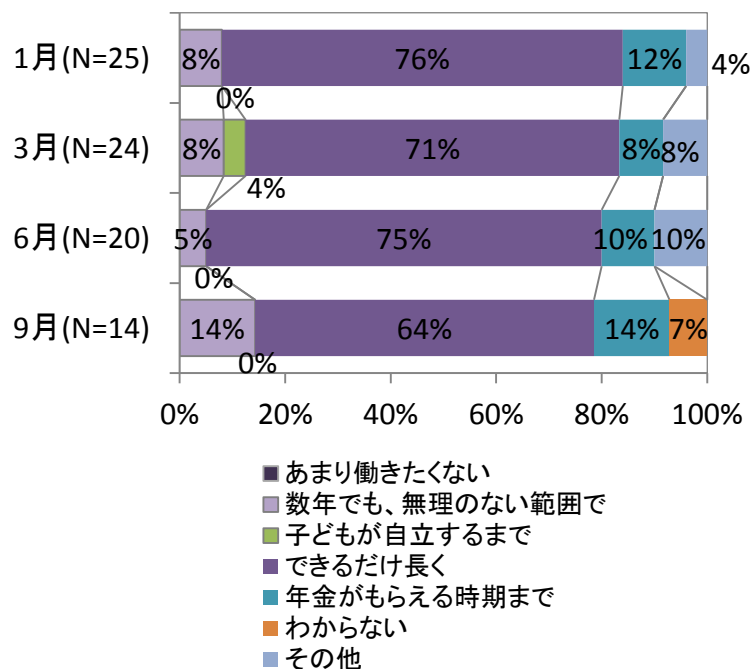
# 訓練終了後の就業希望

- 訓練終了後の就業については、「外勤をしつつ、在宅ワークも続けたい」という希望を持つ受講生が多い。訓練が進むに従い、在宅就業への自身の適性に疑問を持つ受講生も出たが、修了時まで継続した受講生は全員が在宅就業を希望した。
- また就業継続に関しては「できるだけ長く」働きたいという受講者が大部分を占め、就業への意欲は高いものとなっている。

## ■ 受講後の就業スタイル希望



## ■ 受講後の就業継続意向

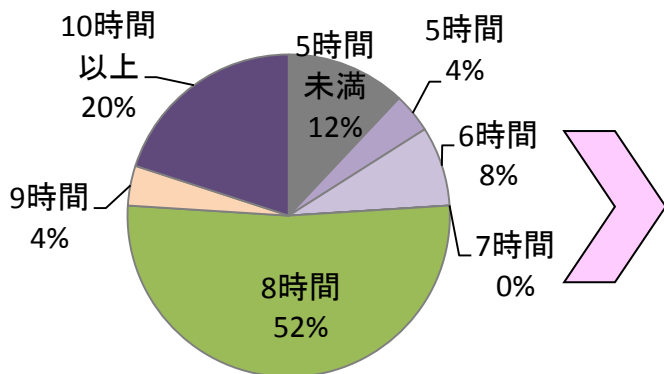


# 今後希望する就業イメージ

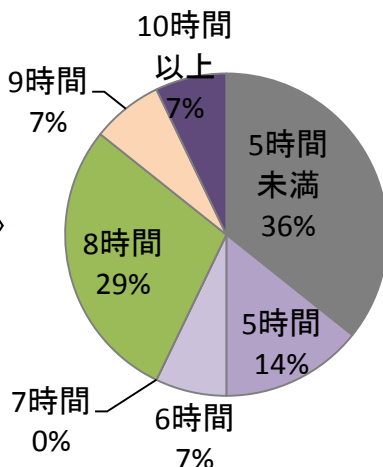
- 外勤・在宅ワーク共に含めての就業時間希望については、1月調査時点では8時間以上のフルタイム勤務希望者が3/4を占めたが、訓練を修了時まで継続した受講者では短時間勤務の希望者が多かった。
- それに伴い、希望月収についても「5万円未満」「5万円～10万円未満」とする回答が半数以上となった。

## ■ 受講後の希望就業時間 ※外勤、在宅ワーク共 含める

1回目調査(2011年1月・N=25)

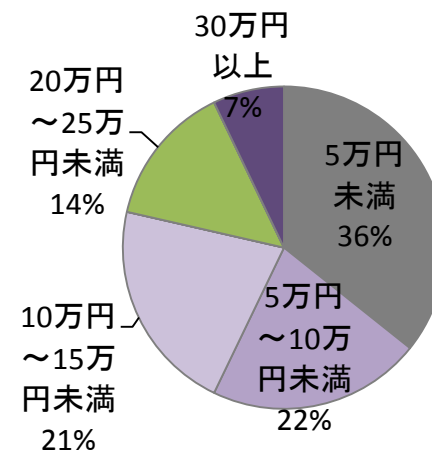


4回目調査(2011年9月・N=14)



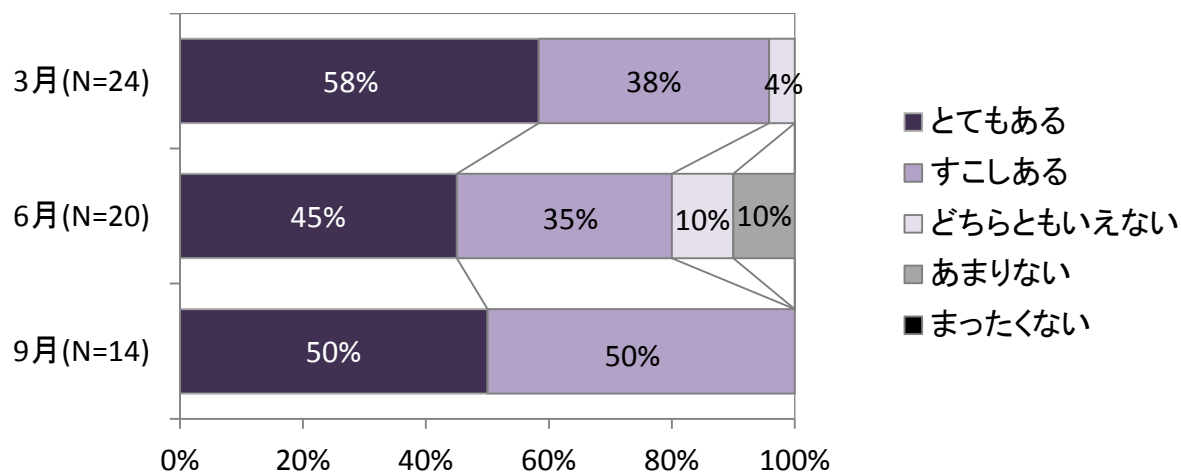
## ■ 受講後の希望月収 ※外勤、在宅ワーク共 含める

4回目調査(2011年9月・N=14)



- ここまでの訓練を受けてきて、変わったと思うところ（生活・知識・学習意欲・仕事意識など）があるかたずねたところ、ほとんどの受講生が「とてもある」もしくは「すこしある」と回答。
- 訓練修了時の9月調査では、「とてもある」「すこしある」ともに50%で、受講者全員が訓練の影響・効果を実感していた。

## ■ 訓練の受講で変わったと思うところがあるか



- 訓練に参加したことによる影響の内容を聞くと、「在宅就業への意欲が増した」「自分でスキルアップをしようと思うようになった」「時間管理ができるようになった」など、生活全般にわたって、様々な向上効果を確認することができた。
- 反面、アンケート中では、育児や仕事との両立や、在宅就業で自立することの難しさを訴える声も散見された。

## ■ 変化の内容（以下は訓練修了時9月調査で得られた自由回答の整理結果、重複該当あり）

	人数	構成比(%)
学習・就業・生活への意欲・姿勢の改善	10	71%
研修後の就業を意識する気持ちが強まった	4	29%
スキル・知識が身につけてきた	6	43%
その他	1	7%

## ■ 変化の内容(自由回答)例

- パソコンが苦手で、仕事にできるようになるとは思っていませんでしたが、OJTで体験できたことで、やればできるんじゃないかという気持ちになれた。もっともっと勉強してパソコンを使いこなしていきたいという気持ちになれた。
  - 日々充実している。現在できる仕事をもらえている。この先でできることが広がっていくような気がする。
  - 日中の仕事に加えての訓練で、在宅での時間管理が難しい中、その生活が当たり前になっていた。多少何か犠牲にすることになっても、時間は作ろうと思えば捻出できるもの。少し頑張っただけで無理をしつつ、細く長く、続けたいと思う気持ち。
  - 訓練を受けて知識が増えたことと、これからは自分でスキルアップをしようと思うようになったことです。在宅ワークへの意欲もさらに強くなりました。
- （以下は途中で参加辞退した受講者コメント）
- 思った以上に、受講内容が難しく育児との両立がかなり厳しく受講している時間が、とても長くなってしまい生活のリズムが乱れた。
  - 応用訓練に入ったが、実際に在宅の仕事として使えるか、というあまりつながらないように思う。課題をこなすだけで終わっている感じ。